



校訓： 進取 敬愛 剛健

児童像 【考える子 思いやる子 たくましい子】

英田っ子

学校だより 6月号

平成29年6月1日

校長 藤井 恒雄

一秒の言葉 ～時間を大切に～

気温が25度を超え真夏を思わせる日が続き、白色に変わった子どもたちの制服は季節の変化を感じさせます。学校周辺の木々も緑の濃さを増し、先月5年生が泥と格闘しながら植えた稲の苗はしっかりと根を張り順調に育っています。



早いもので1学期も半分が過ぎ、折り返し地点を迎えました。6年生は2泊3日の日程で能登少年自然の家での宿泊体験学習を行いました。グループで協力しながら生き生きと活動する姿がとても印象的でした。今、5年生は郡市・町の音楽会、4年生は全員参加で行われる町器械運動交歓会のそれぞれの練習に取り組んでいます。3年生は町の様子巡りに、2年生は学校周辺の探検や野菜作り、1年生はアサガオのお世話など、それぞれの学習に頑張っており取り組んでいます。こうした体験活動を通して、豊かな心と生きる力が育って欲しいと願っています。各学級では、「あいさつや返事」、「聴く姿勢」に力を入れて指導してきました。学習のルールも少しずつ身に付けてきています。長休みや昼休みは体育館や外で多くの子が遊び、子どもたちの元気な声が響き渡っています。

6月に入り蒸し暑い日が多くなってきますが、様々なことに挑戦してほしいと思います。さて、6月10日は時の記念日です。今から100年程前に「時間を守り豊かな生活をしていきましょう」という意味で制定されたそうです。今日の集会では二つのことを話しました。

一つ目は、「一秒一秒を大切に」ということです。世界では一秒間に2.3人の命が誕生し、サッカーコート1面分の森林が失われています。地球は465m回り、光は地球を7周半回ります。時間は一秒一秒の積み重ねです。また時間は、「一日24時間」誰にでも平等に与えられています。その時間をどう使うかは、私たち一人ひとりに任せられています。時間を大切にする心は、一生懸命な姿を生み出すのではないのでしょうか。「聴く姿勢」も今以上に良くなり、学習も楽しくなっていくと思います。今も時間はどんどん過ぎていき、元に戻ることはありません。「時は金なり」という言葉があります。英語で「Time is money」。大切にしたいものです。

二つ目は、「一秒の言葉」(小泉吉宏)です。この詩の一部を紹介しました。

- 「はじめまして」 この一秒ほどの短い言葉に一生のときめきを感じることもある
- 「ありがとう」 この一秒ほどの言葉に人のやさしさを知ることがある
- 「がんばって」 この一秒ほどの言葉で勇気がよみがえってくることもある
- 「おめでとう」 この一秒ほどの言葉で幸せにあふれることがある
- 「ごめんなさい」 この一秒ほどの短い言葉に人の弱さをみることがある
- 「さようなら」 この一秒ほどの短い言葉が一生の別れになるときがある

一秒に喜び、一秒に泣く。一生懸命、一秒。

たった一秒であっても、その言葉で人を幸せにできるかもしれません。そんなキラリと輝くほかほか言葉を使っていきたいものです。

たとえ僅かなことであっても、学校でも家庭でも繰り返し続けていくことが、やがて大きな力になります。子どももぐんと伸びるにちがいありません。6月は授業参観、町器械運動交歓会や郡市・町音楽会などがあります。元気に活躍する英田っ子の様子をご覧ください。

